

経営比較分析表（令和4年度決算）

佐賀県 伊万里市

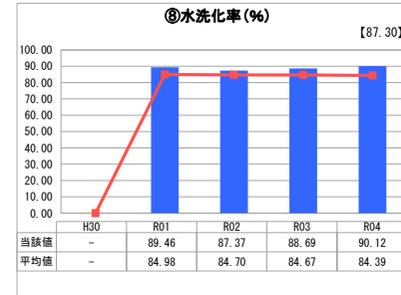
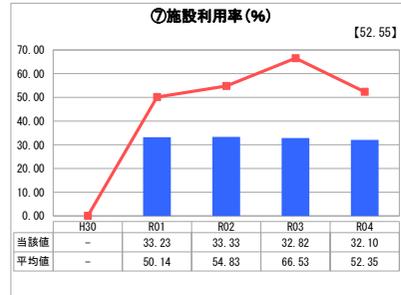
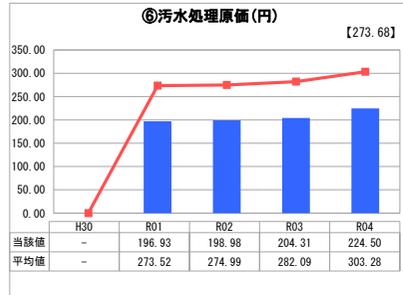
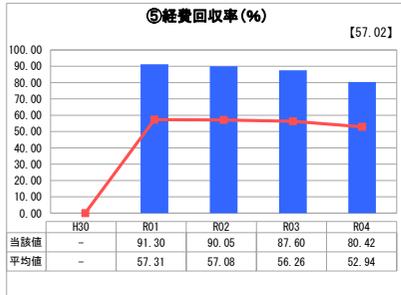
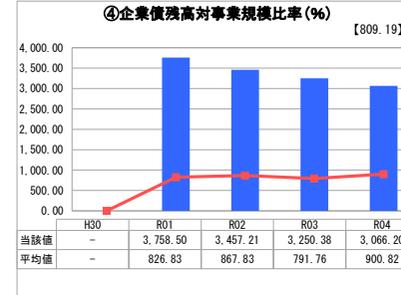
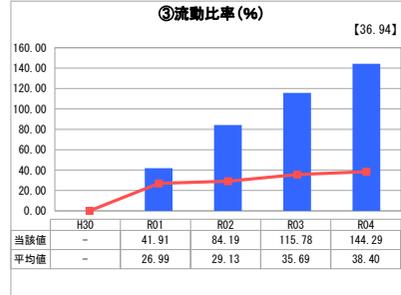
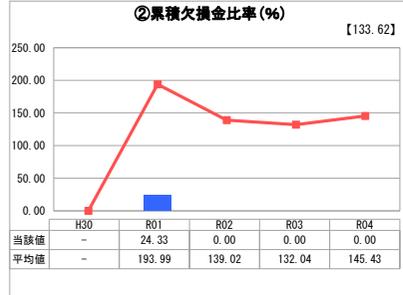
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	67.77	3.21	111.01	3,480

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
52,721	255.26	206.54
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
1,681	0.93	1,807.53

グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経営の健全性について
 ①経常収支比率は前年度から0.13ポイント改善した。
 ②累積欠損金は、健全な経営状態にある。
 ③流動比率は、資本費平準債の借入等資金繰りを行っているため数値が上昇している。
 ④企業債残高対事業規模比率では平均値の約3.4倍となっていることから、新たな起債を抑制するなど経営を工夫しつつ今後の償還に備える必要がある。

②経営の効率性について

⑥汚水処理原価は処理区域が広く費用がかかることから、前年度と比較して20.19円増加しているものの平均値より低くなっている。
 ⑦施設利用率は、人口減少等により0.72ポイント減少しているため、今後の設備の長寿命化を図りながら、更新時に処理能力を検討していく必要がある。
 ⑧水洗化率は全国平均を上回っており、引き続き接続助奨を行うこととする。

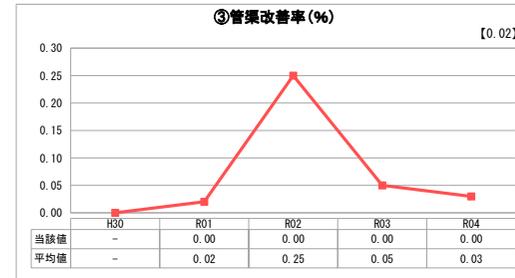
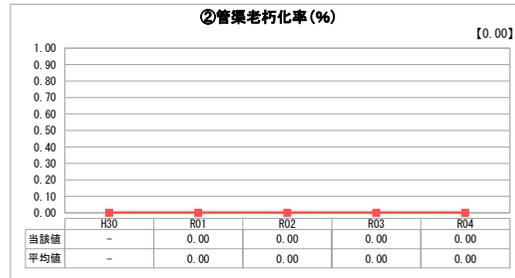
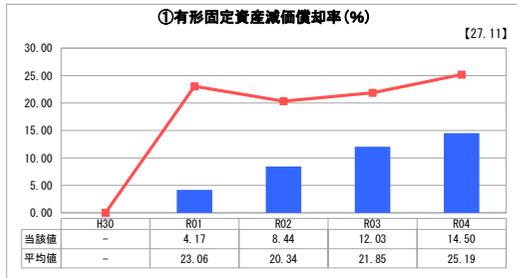
以上より、経常収支比率に改善は見られるが、経費回収率の減少や、企業債残高が高くなっていることから、適正な使用料収入の確保及び汚水処理費の削減に加え、起債の抑制など企業努力を行っていく必要がある。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率は平均値を下回っている。
 令和元年度から公営企業法を全部適用しているが、供用開始から15年以上が経過し、老朽化が進んでいる施設もある。

そのため、施設の最適整備構想にて機能強化を行い、施設の長寿命化を図っていく必要がある。

2. 老朽化の状況



全体総括

使用料収入に対し、地方債償還金が大幅に上回るなど経営経費の削減だけでは改善できない状況となっている。

さらに、地区自体の過疎化が進んでおり、今後使用料の大幅な増加が見込めない状況のなか、老朽化による更新経費の増大や人口減少による収入減など今後の経営を考える上で困難な状況が予想される。

そのため、さらなる維持管理費等の経常費用の削減に努めるとともに料金単価の見直しを検討するなど経営の健全化に努めていく必要がある。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみを類似団体平均値及び全国平均を算出しています。